

南北貨物地区間で自動搬送実験

■成田国際空港

成田国際空港会社 (NAA) は、ANA Cargoの協力のもとで北部貨物地区と南部貨物地区間で自動運転トローイングトラクターを用いた実証実験を行った。3月に豊田自動織機、6月にナガセテクノサービスの車両を活用して実施したもの。北部と南部に分散している貨物地区を結ぶ搬送の自動化で、効率化・生産性向上を実現するための検討材料とするとともに、深刻な人手不足問題の解決策のあり方などについて検証していく。将来的な新貨物地区と新旅客ターミナル間の貨物輸送の自動化に向けた議論も深めていく方針だ。

実証実験の走行ルートは北部貨物地区 (第8貨物ビル)―南部貨物地区 (整備地区スポット付近) の約7キロ。パレットドリーに搭載された貨物を自動運転で搬送した。豊田自動織機による実証実験は3月9日から13日にかけて、ナガセテクノサービスによる実証実験は6月4、9、10、11日に行われた。

NAAは2025～27年度の3カ年中期経営計画「Gear Up NRT」(ギアアップ・ナリタ) で、デジタル化技術の活用による空港運営の高度化・効率化をテーマの一つとして掲げている。空港運用現場の省人・省力化について、必要なインフラ整備やトライアルを通じた技術導入を促進している。

6月実施の実証実験では、ナガセテクノサービスが日本での販売代理店、技術サポートを担っているTractEasy社 (フランス) が開発したレベル4自動運転のトローイング車「EZTow」を活用した。磁気テープやQRコードの



北部・南部貨物地区を結ぶ7キロの道路で実証実験が行われた

ガイドに沿って走る従来型のAGV (無人搬送車) とは異なり、自己位置推定と環境認識に基づいて走行する。走行ルートの変更が柔軟で、人や他車両が混在する環境にも対応しやすい点が特徴という。

今回の実証実験では、大型貨物機に搭載するサイズのULDも加えて搬送した。ナガセテクノサービスによると、EZTowは2025年12月15日に成田空港でレベル4自動運転による実務運用を開始。千葉県やNAAによる自動物流道路の実現に向けた取り組みとも連携している。世界30拠点以上で実運用されている。

NAAは実証実験を通じて、無人搬

送の本格運用に向けた技術面、インフラ面などの課題を洗い出し、実現に向けた調整を進める。成田空港では滑走路延伸・新設、それに伴う新施設整備が計画されており、新貨物地区も整備される。各種実証実験を通じて、現在の貨物地区における効率化・生産性向上を追求するとともに、将来的には新貨物地区と新旅客ターミナル間の貨物横持ち輸送の自動化なども視野に検証を進める方針だ。NAAは「成田空港は日本の国際競争力を支える社会インフラとして、そして地域の皆さまの暮らしや産業を支える拠点としての役割を果たし続ける東アジアの貨物ハブを目指す」としている。